

# 京の通り唄

皆さんは京都の通りを覚えるための唄があるのを知っているだろうか？ 京都で過ごすならば知っておいて損はない通りの名前。ぜひ、この機会にメロディーに合わせて覚えてみてはいかがだろうか。（狭草）

まるたけえびすにおしおいけ  
丸竹夷二押御池  
あねさんろっかくたこにしき  
姉三六角蛸錦  
しあやぶったかまつまんごじよう  
四綾仏高松万五条  
せった  
雪駄ちやらちやら魚の棚  
ろくじようさんてつ  
六条三哲通り過ぎ  
ひつちよう  
七条超えれば八九条  
じゆうじようとうじ  
十条東寺でとどめさす

上に掲載した2つの唄が京都の通りを覚えるためのわらべうたである。左が東西に延びる通りを北から歌った「丸竹夷（まるたけえびす）」、右が南北に延びる通りを東から歌った「寺御幸（てらごこ）」と呼ばれる唄である。これらと京都の通りの地図を照らし合わせて見ると、通りの名前や頭文字が対応しているのがわかる。まずは歌詞や地図を見ながら聴いてほしい。

ところで、歌詞の中にいくつかわかりにくいものがある。これらは今はない通りであったり、地域の名前や言葉遊びなど直接通りの名前でなかったりする。また現存する通りであっても、その名前の由来が面白いものも多い。いくつか顕著なものを紹介する。

## 六条「三哲」通り過ぎ〜

そもそも三哲通とは塩小路通のことである。地図をよく見てみると塩小路通は七条より南である。また東寺通も実は九条より北である。この辺りは実際の並び順よりも歌いやすさが重視されている。

## 「雪駄ちやらちやら魚の棚」

雪駄町通（現在の楊梅通）  
鍵屋町通（現存）  
銭屋町通（現在の的場通）  
魚の棚通（現在の六条通）  
の4つの通りを歌っている。「ちやらちやら」は鍵や銭の音から来ている。この辺りは履物、鍵などの店が並んでいた（今も一部残っている）。

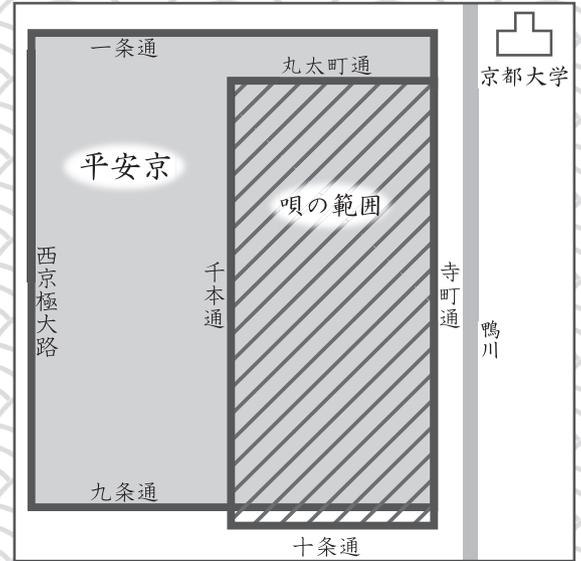
## 果ては「西陣」

実際には西陣通は存在しない。これは地域の名前で語呂合わせのために入っている。

黒門通  
大宮通  
松屋町通  
日暮通  
智恵光院通  
浄福寺通  
千本通

## コラム 京大は京都ではない!?

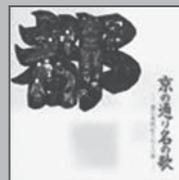
左の唄を見て違和感を覚えることはないだろうか？京大付近の通り（東大路通や今出川通など）がまったくないのである。この理由を突き止めるには平安時代までさかのぼる必要がある。



上の地図は平安京のあったところ、左の唄の範囲、京大の3つの場所を示したものである。見ればわかるように、平安京の北の境は一条通、東の境は寺町通までと京大はその中に入っていないのである。平安時代、京大周辺は農民などが住む地域だった。

さて今度は唄に歌われている範囲と平安京を比べてみよう。東と北、南についてはほぼ端が一致している。しかし西だけはだいたいずれている。実は平安京の内裏の移転が関係している。794年、内裏は千本通にあった。ところが960年に内裏がすべて燃えてしまい今の御所の場所に内裏を建て直した。これにより都の中心が東にずれてしまい西はどんどん廃れていったのだ。唄に西の通りがあまり入っていないのも納得である。

この記事で紹介した唄はCDにも収録されている。参考までに以下のCDを紹介しておく。



『京の通り名の歌  
一都の歳時記とわらべ歌』  
あいらず児童合唱団、高橋美智子  
制作：京都レコード  
品番：MISH-0502  
価格：1,542円（税込）  
2002.9.1発売

てらごこふやとみやなぎさかい  
たかあひびがくるまやらよう  
高間東車屋町  
からすりようがえむろころも  
烏兩替室衣  
しんまらかまんざにしおがわ  
新町釜座西小川  
あぶらさめがいほりかわ  
油醒ヶ井で堀川の水  
よしやいのくろおおみや  
蔭屋猪黒大宮へ  
まつびぐらしちえこういん  
松日暮に智恵光院  
じょうふくせんぼん  
浄福千本果ては西陣

